

若手社員中心に「クレド」を策定 ベテランも巻き込み施策を展開

株式会社タック



2022年1月に開催された経営方針発表会（一時的にマスクを外して撮影）

岡山県備前市に本社のある株式会社タックは、陶磁器や耐火原料の採掘販売業として1932年に創業した老舗企業だ。現在はシールドトンネル工事をはじめとした地下空間の整備事業を主体に行い、1,500を超える現場で実績を積み重ねてきた。

2021年には「ものづくり日本大賞」の「経済産業大臣賞」、2022年には「国土技術開発賞」の「創意開発技術賞」を受賞するなど、技術面への評価は高い。さらに、2018年から健康経営優良法人に継続して認定され、2021年にはプライト500認定も取得するなど、社員の健康管理に配慮する企業としても認められている。

そこで、同社の健康と産業保健に関する取組について、取締役総務部長の高橋千亜紀さんにお話を伺った。

社長は聞き役に徹してボトムアップにシフト

同社では若手社員を中心にクレド[※]を策定し、ベテラン社員とのバランスにも配慮しながら全社的な経営の意思決定を行っていて、これが社員の健康づくりに関する戦略的な施策の基盤になっている。

「クレド策定のきっかけは、約11年前、当社の瀧川社長が経営の勉強会に参加したときに『意思決定をトップダウンからボトムアップにシフトしていかないと、会社としての成長はない』と指摘されたことでした」と高橋さんは振り返る。この指摘に同意した社長がクレド活動を取り入れ、若手を中心に自分たちで話し合っで自分たちで決めるという社風が定着していく。

策定を始めた当初はさまざまな発言が飛び出し、ベテラン社員からは少なからず反発もあったというが、そこを社長がぐっと我慢して聞き役に徹し、社員全員の意見や思いを反映したクレドをつくり上げた。「自分たちでつくり上げたからこそ、実行しなくてはいけないという使命感も出ている」と、高橋さんは社員主導で取り組む意義を語る。

ただし、クレドが策定されるずっと以前から、同社では安全衛生活動を継続してきた実績がある。毎月1回の安全衛生協議会は、記録があるだけでも25年以上前から開催していたという。この協議会には全員参加が原則だ。開催日時は毎月1日の午後1時半から、出張などでどうしても参加できない社員以外は上海やシンガポール、東京、大阪などの支社からもリモートで全員が参加する。

一会議一発言を徹底して 社員の発信力を磨く

協議会は社長挨拶から始まり、今月の安全目標の発表と説明、毎年1月の経営計画発表会で決定した毎月の「月間フィロソフィー」について、社長から説明がある。例えば1月なら「常に明るく」という目標で、それについて社長が話すとのこと。また、「安全運転宣言」として、交通安全の担当者が事故防止について事例を挙げて注意を喚起する。本社だけでなく、同社テクノセンターにも「安全当番」があり、ワイヤー点検、ごみ処理などの状況を報告する。

さらに同社には“資質向上委員会”、“行動規範委員会”、“ハウレンソウ（報連相）委員会”、“品質向上委員会”という4つの委員会があり、役員以外の全員がいずれかの委員会に割り振られている。この各委員会がそれぞれ1カ月の間行った活動や、今後の計画などを報告するのもこの協議会だ。こうしてそれぞれの立場から、全員参加で意見を発表することを徹底している。

「もちろんメールでのやり取りもしますが、仕事の内容や安全健康面について、共通理解を促す場としてこの協議会を重要視しています」と高橋さん。

クレドの最後には、「私達は笑顔を忘れることなく、互いに発言しやすいムードをつくり一会議一発言を心がける、日本一明るい会議を目指します」という項目がある。

「リモートではなおさらコミュニケーションは重要になってきます。『どうやったら相手に伝わるか』について、みんなが経験を積むことで、発信する能力が高まってきました」と高橋さんは実感している。良好な社内コミュニケーションは社員のモチベーションを高め、メンタルヘルスにもよい影響を及ぼしている。

日本縦断を目指した歩数カウントと 社員同士を結びつける感謝カード

委員会発の健康施策で好評なのは、ハウレンソウ委員会の発案で行った「歩数カウント」という取組だ。全員に歩数計を配布し、日本縦断地図で距離を毎日記録して、月間順位や平均を発表するというもの。3～4年続けているというが、最近はいつも歩く人だけが上位にくること

がないように、「前回より記録が伸びた人」という項目を設けるなど、全員に参加意欲が湧くよう工夫しているという。

もう1つ同社が力を入れているものに「感謝カード」がある。

「普段なかなか言えない、ありがとうという気持ちを伝えるものですが、些細なことでもありがとうと言える人はすごいし、感謝される人もすごいと思います。読んでいだけで気分がよくなるような内容です。喜んだということを手元に伝えるだけではなく、社内全体に配信されているので、心のケアや、心の幸福度向上につながっていると思います」と高橋さんはその意義を語る。感謝カードの1枚1枚が、社員同士を結びつける健康経営の重要な施策の1つなのだ。

80歳で現役！ よい手本を目標に いつまでも働ける会社に

高橋さんが取締役総務部長を拝命したとき、「みんなが幸せになる！」という目標を立てた。これは「社員に幸福（しあわせ）を！ お客様に喜びを！ 社会に貢献を！」という会社の“フィロソフィー”に合致したものだ。

現在目指しているのは「みんな元気で、いつまでも働ける会社」だ。同社には2022年2月で80歳になった社員が元気に働いているという。「声も大きいし、社内で一番元気で仕事もできる。『後ろに目がある』と言われるぐらいの技術を持ったお手本になる方がいるので、そういう人を目指して自分たちも働いていきたい」と高橋さんは語る。

同社に勤務中はもちろん、退職後も元気であり続け、「タックで働いてよかった」と思えるような会社づくりが高橋さんの理想だ。そのためにも健康寿命を意識して、仕事とプライベートを充実させることによって社員や家族の満足感・達成感も味わえるような取組に今後も挑戦し続けたいと、高橋さんは決意を新たにしている。

※ クレド（Credo）：信条、志、約束などを意味し、企業活動の拠り所となる価値観や行動規範を簡潔に表現したものの。

会社概要

株式会社タック
事業内容：シールドトンネル工事関連の材料開発・販売・リースなど
設立：1957年（創業：1932年）
従業員：60名（グループ会社含む）
所在地：岡山県備前市